

吉村順三「御蔵山の家」の設計プロセスの立体モデリング化を通しての考察

八代研究室
01712155 安田 順三

1. 研究目的

日本を代表する建築家である吉村順三（1908～1997）の作品の一つに、「御蔵山の家（1966）」がある。これは若い夫婦に向けた住宅であり、京都宇治に存在する。その設計プロセスの図面は「吉村順三建築図集補遺」にその17プラン全てが記載されている。（図1）その原図を基にCADで立体モデル（図2）を作成し、作成したモデルを比較することによって、構想当時の意図や設計手法を明らかにすることを目的とする。

2. 設計当時の吉村順三について

吉村順三の代表作に「軽井沢の山荘」がある。

「軽井沢の山荘」が設計され完成したのは1962年のことであり、本研究の「御蔵山の家」は2年後の1964年に設計が開始され、1966年に完成形である17番目の設計が描かれた。

この1964年は、吉村順三が56歳の時であり、建築家として全盛期であると捉え、吉村順三を理解するうえで最も適している年代の作品だと考えた。

3. 「御蔵山の家」について

住宅としての基本的な条件を犠牲にしないでクオリティを可能な限り上げるという意図の貫かれた住宅であり、当時プレハブ住宅の坪単価が15万円程度であったなか坪単価11万円程度、それながら台所や寝室、暖房器具、ボイラーも設置されている。

4. 各プランとの比較

まず原図（図1）を基に立体モデル（図2）を作成した。図1にある平面図との比較のしやすさを考慮し、図2にある立体モデルは全て平面パースで記載した。次に作成した立体モデル（図2）から家具の配置や構造形式などの設計プロセスの変遷を表1にまとめた。

設計が至るまでの期間は大きく3つに分けることができ、プラン1から6、7から12、13から17の6プランごとを短期間で設計したことを発見した。

期間を空けることによって、それ以前のプランとは意匠が大きく異なるがより理想形に近づき、効率的に設計が進められたことがわかる。

1つ目のプランは長方形の大型のリビングを南側に配置した凸型の形状のものから始まり、プラン3まで凸型で設計が進められた。

プラン2から4本の柱で支える構造が描かれ始め、プラン6までその構造で設計されていた。（図2）次のプランから徐々に柱は無くなっていき、プラン10からは柱は描かれなくなった。

吉村順三の図面の特徴的な部分に回遊動線、サーキュレーションがある。この回遊動線はプラン5から顕現され始め、それ以降のプラン全てに描かれている。前述の柱の消滅に伴い、中心は収納や浴室、トイレなどをコアとし、回遊動線を作り空間に広がりを持たせると同時にローコストを実現させた。

プラン15の時点でほぼ完成形に近いプランになっており、家族数の増加に伴う増築をすることを考慮して最後のプラン17で左右反転したものだと考える。

家具について見ていくと、プラン4の時点で完成形であるプラン17にある大半の家具が既に設計されていることがわかる。施工、設備、家具にかかる費用についても大まかに予算内に収まるよう見積もられており、以降の設計に全ての家具が記載されているものではないが恐らく全てのプランにおいて家具の費用と配置を念頭に設計が進められたと思われる。

5. おわりに

本研究では立体モデルを作成し比較分析を行った。期間を空けて効率的に設計を進めること、住宅を建てる為のみの設計だけでなく、その住宅に配置する家具計画、増築等の先を見据えた設計でなおかつ高性能ローコストを実現する技術は立体化することによって、より鮮明に浮き彫りにすることができた。

【参考文献】

吉村順三設計事務所『吉村順三建築図集補遺』同朋舎1994

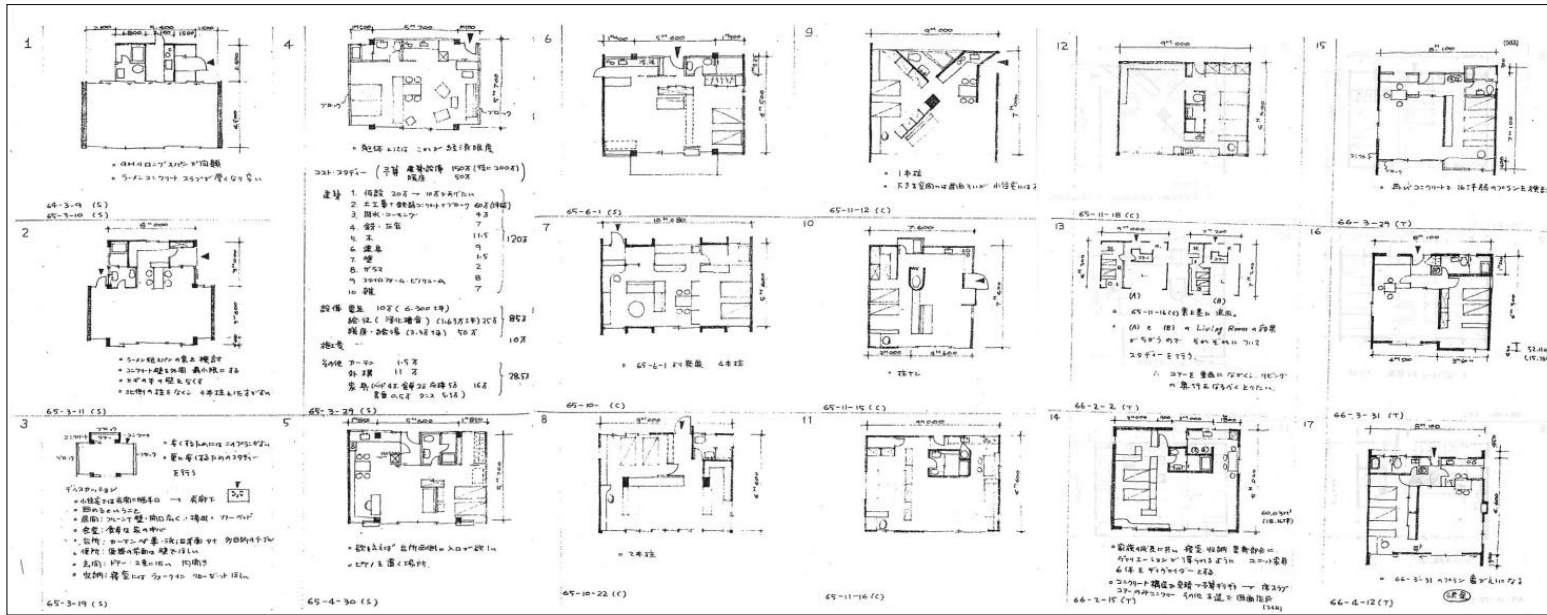


図1 分析対象とした17プランの原

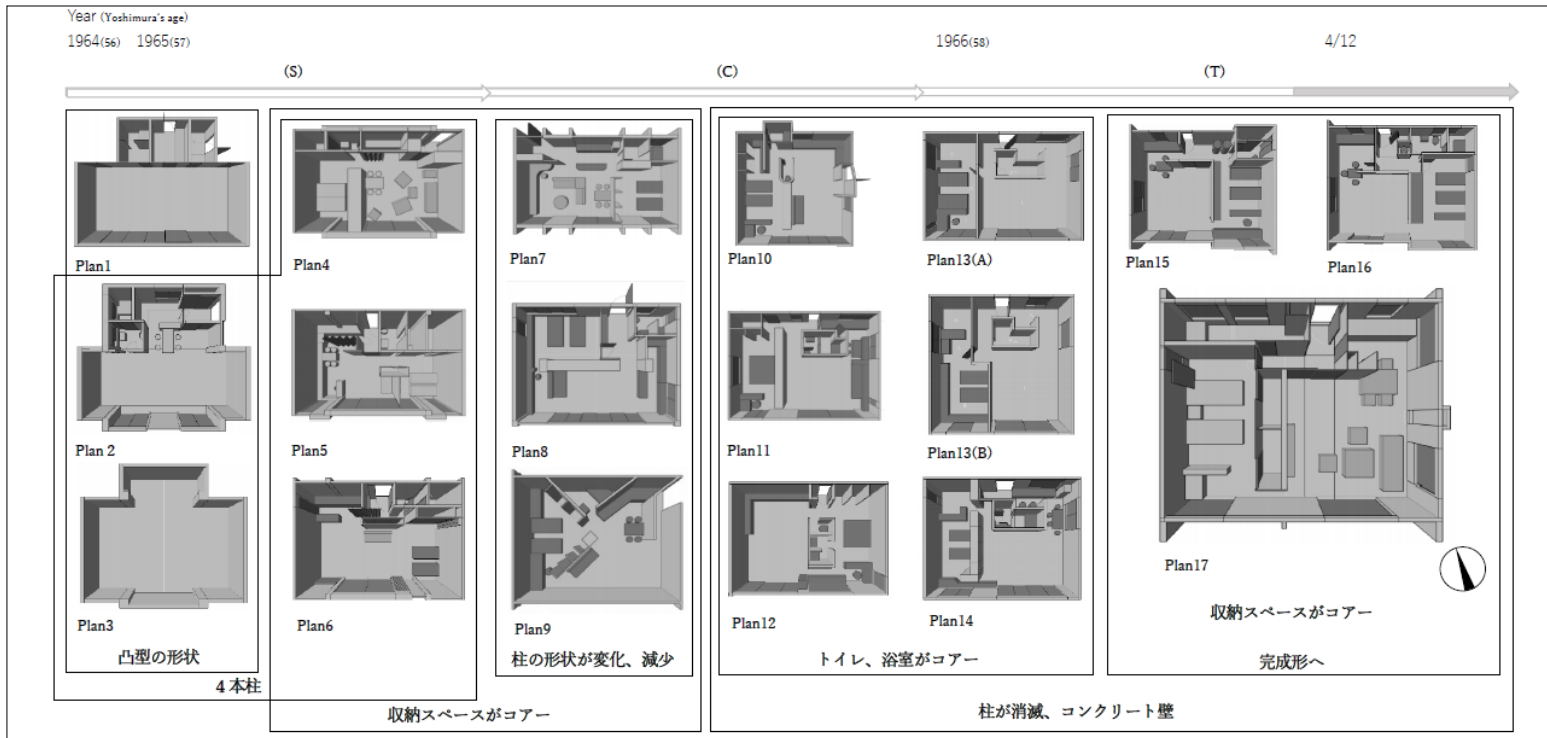


図2 17プラン 平面パース

表1 設計プロセスの変遷

プランNo.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13(A)	13(B)	14	15	16	17
設計情報	設計日	1965 3/9	1965 3/11	1965 3/19	1965 3/29	1965 4/30	1965 6/1	1965 10-	1965 10/22	1965 11/12	1965 11/15	1965 11/16	1965 11/18	1966 2/2	1966 2/2	1966 2/15	1966 3/29	1966 3/31	1966 4/12
	建築面積[m ²]	53.46	50.40	/	49.59	53.01	61.10	56.45	59.40	63.00	57.76	59.40	59.40	56.70	51.84	60.03	57.51	52.11	53.46
家具	ソファベッドの有無	×	×	×	○	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○
	書斎スペースの有無	×	×	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	書斎本棚の有無	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	○
	書斎机の有無	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	○
	食卓テーブルの有無	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	×	○	○	○	○
構造	柱[本]	0	4	4	4	4	4	4	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	玄関ドアの開閉向き	外	外	×	内	外	内	外	外	×	外	内	内	×	×	×	内	内	内
備考:設計日左の記号	S	S	S	S	S	S	S	C	C	C	C	C	C	T	T	T	T	T	T